

第79回定期大会

# 委託・賃下げ攻撃を組織強化で反撃へ



東京清掃労働組合  
 千代田区飯田橋3-9-3  
 TEL (3237) 9995  
 1部20円

編集責任 長明  
 教宣部 浩  
 坂本

### わが組合の綱領

わが組合は、社会主義的立場を堅持し、労働者の権利を擁護し、社会の発展に貢献することを目的とする。わが組合は、労働者の生活向上を第一とし、労働者の権利を擁護し、社会の発展に貢献することを目的とする。

## 第79回定期大会特集

東京清掃労働組合第79回定期大会が9月26日、全電通会館で開かれました。

2010年度運動方針案をはじめとする全ての議案と、一般経過報告等は拍手で確認され、自治体財政危機等を理由に清掃事業の委託化、賃下げ攻撃などが進むなか、撥ね返す各支部、総支部からのさらなる組織強化を全体で確認し合いました。



大会は9時30分の山崎組 織部長の司会で始まり、議

清掃事業が移管されて、この3月で10年を過ぎました。この間、事業遂行に当たって、大きな混乱を招くことなく事業が進められたことは、各支部1人1人の組合員の努力の賜物です。改めて中央執行委員会として、各支部の組合員・役員

の皆さん方に対して深く御礼を申し上げます。わが組合は地公労法に基づく労働組合として、団体交渉権や労働協約権結集が保障された労働組合としてこの10年間活動してきました。事業の一貫性、統一性、一体性を堅持し、職場を守り、組合員の生活と権利を守るため、組織の総力を結集する中で奮闘してきました。

長に松村（一組本庁支部）金澤（新宿支部）両代議員を選出し、両議長の下で議事が進められました。本部を代表して西川委員長から挨拶を受け、清掃事業の区移管後、委託化の拡大、非正規、派遣の拡大の中、品川工場の事故、水銀混入問題

が起きている。また公務員バッシングと厳しい状況、攻撃が続くが、さらなる闘う体制が確立し、団結強化を図られる大会とするよう訴えました。

大会では多忙ななか、来賓の方々が出席され、5名から激励連帯の挨拶があり、

超える水銀が検出されたの公務・公共サービスです。を初め、わずか1カ月の間に板橋清掃工場、光ヶ丘工場、千歳工場の4工場において、水銀混入ごみ不適正搬入が明らかになり、大きな社会問題としてマスコミなどで取り上げられました。一貫性、統一性、一体性の

多くの方からメッセージもいただきました。（別項）続いて資格審査委員会の報告を受け、大会の成立を宣言し、大会運営委員会報告が行なわれました。続いて染書記長より賃金確定、事業執行、水銀混入問題、公務員制度等を中心に経過報告が行なわれ、杉並（工）江戸川（工）、北、中野、新宿、渋谷の6支部6名から質疑討議があり。本部答弁後全体の拍手で承認されました。午後は会計監査報告、会計報告され全体の拍手で承認されました。

## 委員長あいさつ

中央執行委員長 西川 卓吾



たなか昨年9月には、品川清掃工場において派遣労働者の21歳の委託労働者の痛ましい死亡事故が発生してしまいました。正規・非正規、公共・民間を超えた社会的労働運動の構築と具体化が求められています。また本年の6月11日には、足立清掃工場で事故規制値を

を、全職場からの闘いに取組み組んできました。結果的には残念ながら白紙撤回は叶いませんでしたが、32年ぶりに整備職員の新規採用に勝ち取ることができました。

また一方で今日の全国的な現業賃金削減攻撃や現業切り捨て、退職不補充、職

信しなければなりません。2009年確定闘争で不当労働行為の闘いは、24年にして一定の解決が図られました。この闘いは被解雇者と家族の頑張りであったと言えます。一人も露頭に迷わせないということ

最後にありますが、この間の民営化、規制緩和のさきがけであり、効率化社会を生み出したと言える国鉄の分利民営化に伴う

1047名に対する国家的不当労働行為の闘いは、24年にして一定の解決が図られました。この闘いは被解雇者と家族の頑張りであったと言えます。一人も露頭に迷わせないということ

（2めんへ）

(1めんより)

でも、引き続き粘り強く闘っていく決意です。

私たちを取り巻く状況は、退職不補充を施策として、退職不補充や委託拡大、た欠員不補充や委託拡大、

### 討論 経過報告

岩田代議員

(杉並工場支部)



固有職員が少なくなっている。清掃工場の技術、技能が低下している。

水銀混入問題に関して、アウトソーシングが推進されているなかで、23区から出されるすべての廃棄物は23区が基本的に取り組まなければならない事。東京23区における清掃行政をどうしていくのか。どのような考え方を聞きたい

技能主任の問題について、一組は180人ぐらい有資格者のなかで、15名程度しか受からない。これは7~8%にしかない。

行政職のほうはほとんど合格している。このままでいくと技能主任になれずに退職する人間が多く出てしまう。合格率をあげるよう要請している。23区では現業

非正規、派遣の拡大という大変厳しい状況が続いておられますが、本大会においてそれぞれ各代議員からの活発な議論のもと、もじどおり生活と権利を守るた

は、全体の3分の2。現業職は3分の1。組織化が大きな問題であり、対応が必要だ。

労働者の何%ぐらいが技能主任に受かっているのか。

一組ではさまざまな問題、例えば死亡事故の問題、アウトソーシングの問題、水銀問題、全20工場支部集めて会議をしている。当局より早く情報を流すことにより、労働組合の優位性をもたせている。また区の派遣職員、二組、その組織問題に対応していかなければならない。東京清掃の本当に危機があると思う。有効な金の使い方をしなければいけない。組織を守るためだったら徹底的に注入すべき。犠牲資金についても取り崩しも含めて考えるべきではないか。都市清掃についてどのようか。今の見解を持っていか。中里代議員

中里代議員

(江戸川工場支部)



一組の中の行政職の数

### 答弁

染書記長



め、さらなるわが組合の闘う体制確立と団結強化がはかられる大会になることをお願いして、中央執行委員会を代表してのごあいさつにかえさせていただきます。

今回、豊島清掃工場の来年度委託化が提案されている。いよいよ全体の過半数という問題が浮上している。過半数を割ると、当局側との交渉も非常に難しい状況になる。

23区から毎回毎回全員執行委員を集めて議論をしているが、一組総支部は20支部、2分会であり、また交渉事項はかなり多い。区派遣の職員、一組固有の職員等、任用の違いもある。二組の問題ある。非常に困難な状況が続いている。また時間内組合活動規制のなか、1年間で年休の8割以上は組合活動。夏休自体もすべてが組合活動、週末もうちに帰って全部組合の事務整理に追われている。我々の組織がもたなくなってきた。

専従の配置、もしくは一組総支部の交付金について増額をお願いしたい。

も対応を図っていききたい。それは労働組合としての使命。3点目として組織財政問題は多くの課題を抱えている中で、20工場支部機関会議そのものも非常に難しい中で意思統一をおこなっている。簡単な話ではないが在籍専従を置くことや財政的な措置も含めて、慎重かつ迅速な議論を大会終了以降、一組の問題だけではなくて、全体の問題として組織財政の問題を精力的に進めていく。

都市清掃は、現在政府で容り法を初めとしたさまざまなリサイクル法案の見直し等の議論がされている。都市清掃は職能的な組織として全国唯一の清掃労働者が集まる連絡会として政策・制度研究会を発足し対応している。また東京清掃の問題提起のもと、都市清掃としても改革を今現在進めている。二組の問題は弁護士との弁護士対策会議や組織対策委員会の中でも議論を経ながら進めている。

9月15日の中央委員会で議事全労協への役員派遣と処遇についての議事が突如として提案された。専従役員の人数や処遇の問題は丁寧な議論のもとで慎重に扱うべきだという意見があったはずだ。本日の議案には上がっていない。西川中央執行委員長が本部中央執行委員会で、規約上、大会に提案するものではなく、渋谷清掃会館の再雇用職員の対応と同様だという趣旨の発言がされたと聞いている。確かに規約上は問題ないが、組

全労協の運動は20数年前に労働戦線統一という状況の中で、連合や全労連に行けない労働組合が総評のプラス面を引き継ぎ、結成されたと聞いている。それは国鉄闘争が始まった時期でもある。既に国鉄闘争は、最高裁での和解が成立して、雇用問題を残っている。今の全国の労働者が置かれている状況は、非正規労働者の増加、生活できない労働者や死を選ぶ労働者など、深刻な社会情勢だ。一方的に解雇をされる人やひとりて闘っている人などの支援を続けてきた全労協の役割は評価できるし、ますます必要になってきていると思う。清掃労組の一組員としても、東京清掃労組から全労協へ役員を送り出せることを誇りに思う。清掃労組としても組織を挙げ、活動すべき。また、活動を続ける以上、生活費も活動費も必要だ。東京清掃と

大会確認すべき同様の案件である本部書記の雇用と

織財政検討方針、組織集金の議論を踏まえれば、きちんと組合員の議論を保障し、大会で確認すべき。西川中央執行委員長の答弁を。野田代議員

(新宿支部)



全労協の運動は20数年前に労働戦線統一という状況の中で、連合や全労連に行けない労働組合が総評のプラス面を引き継ぎ、結成されたと聞いている。それは国鉄闘争が始まった時期でもある。既に国鉄闘争は、最高裁での和解が成立して、雇用問題を残っている。今の全国の労働者が置かれている状況は、非正規労働者の増加、生活できない労働者や死を選ぶ労働者など、深刻な社会情勢だ。一方的に解雇をされる人やひとりて闘っている人などの支援を続けてきた全労協の役割は評価できるし、ますます必要になってきていると思う。清掃労組の一組員としても、東京清掃労組から全労協へ役員を送り出せることを誇りに思う。清掃労組としても組織を挙げ、活動すべき。また、活動を続ける以上、生活費も活動費も必要だ。東京清掃と

次に、今年度の会計予算は2007年度財政方針を逸脱していると思われるが、来年度、また、その後の財政運営の見通し、展望はどうなるのか。組織集会で議論された内容を本部はどのように受けとめているのか。また、統一交渉の拡大はどうなったのか。次に、本部の「次年度のぐみ量推計」「年末年始のぐみ量推計」等作業計画等の資料の事務連絡が遅い。どうなっているのか。全労協問題であるが、極めて乱暴な機関運営だ。職場組合員に相談する意思が見えない運営だ。

大会確認すべき同様の案件である本部書記の雇用と

### 答弁

染書記長



一連の全労協等の人事について先日まで全労協副議長ということで、高齢の議長の代行的な役割で中央省庁とのやりとり等を担っていた。また次期議長については、官公庁から議長を選出するというのがこの間の議論であった。機関運営のあり方については、人事選考という水面下で行なう部分が多々あり、具体的な名前が浮上した時は急遽、判断という状況であった。中央委員会という大会に次ぐ議決機関で判断してもらった。規約規定上、書記の配置については中央執行委員会の議を経て中央執行委員長が任命することになっている。過去においても再任用、再雇用の雇用について、今回より丁寧な議論と

全労協運動の役割は、地域共闘、単組共闘、全労協の今の運動の軸となっている。我が組合としても、その社会的な労働運動の役割というものが我が組合に課されている大きなテーマである。そのような運動に連携していくことが必要だ。財政的に厳しいのは百も承知だが、足元の運動もやった

大会確認すべき同様の案件である本部書記の雇用と

上で、さらに苦しくても踏ん張って外の運動もやっていかないと、展望、運動の発展性が見いだせない。

国鉄闘争が一定の結節点に達して、地域共闘、単組共闘のあり方、これから非常に重要になっている。全労協運動の果たす役割の中で中央省庁との対応もあり、議長になると、現職を続けながら行なうのは困難だ。負担の少ない再任用職員として雇用し、全労協役員として派遣することになった。中央執行委員会と熟慮の末、中央委員会に提案を図った。そして判断をいただいた。ぜひよろしくご理解をお願いしたい。全労協の賃金の話だが、本来であれば全労協が担わなければならない。この間、選考委員会の中でも賃金のあり方についても、構成組織、民間も含めてきちんと議論を図っていくべきだということとで問題提起もされ議論されている。

交付金のあり方も含めて、整理が図られた時点で補正予算案の提案し、財政の部分についても議論をしていく。現在時間内組合活動の規制の中で、常任、中央執行委員も非常に厳しい組合活動に身を置かれているが、他団体との情報交換、連携等は断ち切ることが運動上できなし、わが組合の損失

統一交渉については小樽の大会に臨むに当たって、常任執行委員会の中で徹底的な議論を行い、都市清掃の役員としての対応も含めその都度、常任、中央執行委員会の中で確認し、中央委員会でも報告してきた。また大きく変化している廃棄物行政であるが、残念

ながら自治労本部が対応しきれなかった。都市清掃が中心となって、自治労に対して働きかけをして、やっ

西大條代議員 (中野支部)

各代議員から質問がされ、基本的なことについては、書記長からお答えしたとおりである。

人事案件であり、水面下で進める内容である。組織として責任ある対応ができる状況になり全体に報告できる。人事案件はそうした取り扱いはならざるを得ない。機関運営上、時間的に保障が不十分で唐突な感じを受けるかも知れないが、ご理解いただきたい。書記としての雇用については、これは我が組合の規約どおりにするため、より丁寧に対応した。



都市清掃については小樽の大会に臨むに当たって、常任執行委員会の中で徹底的な議論を行い、都市清掃の役員としての対応も含めその都度、常任、中央執行委員会の中で確認し、中央委員会でも報告してきた。また大きく変化している廃棄物行政であるが、残念

### 討論 10年度方針(案)

西大條代議員 (中野支部)



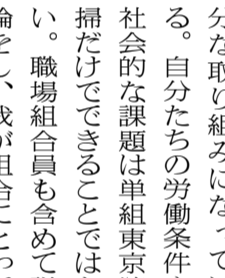
統一交渉は重要課題としているが、増えている。この間、支部として当局との協議はもちろんのこと、



区議会派への要請、市民団体の懇談してきた。当局と協議をしているなかで、現在の自治体の厳しい財政の中で有料化を実施することは職場への合理化につながるし、また他の22区に大きく影響する問題、支部としては有料化阻止の取り組みを行なうと同時に本部としてさまざまな形で家庭ごみ有料化への対応してもらいたい。

家庭ごみの有料化は、全国の約60%以上の自治体で実施している。中野区も一昨年の廃棄物減量審議会の最終答申で家庭ごみ有料化の実施の方向が出された。この間、支部として当局との協議はもちろんのこと、

賃金確定闘争などの自らの直接的な課題以外は十分分な取り組みになっていない。自分たちの労働条件や社会的な課題は単組東京清掃だけでできることではない。職場組合員も含めて議論をし、我が組合にとっての共通とはどうあるべきか、議論が必要ではないか



福島代議員 (杉並支部)

家庭ごみ有料化基本的には反対である。東京23区は地域性や他自治体の状況等多様な分析をし、阻止する取り組みを進めたい。併せて有料化だけでなく23区における清掃事業について区長会と議論していきたい。



級格付制度が廃止になることに伴い、今後級格付でなくどのように反映をさせるのか、どんな制度を求めていくのか明らかにしてもらいたい。要求は具体的であるべき。例えば現場定数での技能長を設置し、現場で働きながら3級へ行く道をぜひ検討し、実現するた

### 答弁

吉田副委員長



確かに統一項目が増えない状況がある。この間車両架装基準の関係で足立の「新小夕」、電動車両の試行等、書記長と協議会と窓口で、また課長と意見交換して



青年部組織人員は5年前には300人弱いた青年部も現在は71人という事態になっている。青年部はこの間の新規採用抑制で大打撃を受けている。今年度2区において新規採用があり、本部青年部として早速職場オルグに入った中、支部青年部活動を再開した。先輩方がつくり上げてきた歴史と伝統のある東京清掃青年部という組織、そこに結果する仲間を大切に、これからも全力で青年らしい運動を展開していきたい。今後も基本組織からの協力をよろしく願いたい。

帯の中で東京清掃があることを支部役員だけでなく組合員全体に理解してもらおうよう、本部としてもそれを伝える努力をしていきたい。任用、級格付等処遇改善については、これから確定闘争が始まる中、専門委員会を設置し専門委員会の中で議論をしていく。また支部代等機関会議を開催し、組合員の意見も酌み上げていく。他方特区連と連携も併せて進めていく。



中里代議員 (江戸川工場支部)

平成24年6月から扶養手当の部分が勤勉手当の原資として業績評価で成績率分配される。一時金で格差が生じる。大きな問題である。本部として対処方針等が示してほしい

### 答弁

吉田副委員長



「扶養手当の部分が勤勉手当の原資問題」についてはまずは当局に資料の提供を求め、コミュニケーションし、議論し対処方針をつくっていききたい。

# 大会宣言

私たちはここに第79回定期大会を開き、真摯な総括と方針討議をもとに「2011年度運動方針」を決定した。

2009年8月の総選挙において、新自由主義・構造改革路線によって格差・貧困を拡大してきた自民党を中心とした政権から生活者重視を掲げた民主党を中心とした政権に政権交代が行われた。

戦後初めて選挙による政権交代で誕生した新たな政権に国民は大きな期待をかけたが、「政治とカネ」「普天間移設問題」等によって、その後の参議院議員選挙では、民主党は大敗し、公務員を敵視した政策を掲げる政党が躍進をした。今後も国民の目を欺くための意図的な公務員攻撃はさらに厳しくなることは明らかである。今こそ官民を問わず、すべての労働者の生活と権利を守るために、社会的存在としての労働組合の使命を果たすことが求められている。

清掃事業が都から区に移管されてから丸10年が過ぎた。各区では、退職不補充、新規採用抑制の方針を掲げ、独自性の名のもと、車付雇上をはじめとした様々な事業形態が導入され、一組においても経営改革プランによる委託化が進んでいる。委託等の合理化による矛盾は現場の組合員の大きな負担になっている。東京23区部における清掃事業の収集から処分までがそれぞれ違う自治体で運営されている現状において、安定的かつ円滑な清掃事業を展開するには、委託を中心とした事業展開を改め、直営による責任ある清掃事業の展開を図るべきである。

昨年の09賃金確定闘争は、07確定における保障額表からの脱却を掲げ、「取られたものは取り返す」という、労働組合として当然の主張を全体で確認し、全力で闘いを展開した。妥結内容は決して満足するものではなかったが、保障額表から業務職給料表への切り替えを勝ち取ることが出来た。意図的な公務員攻撃が激化するなかでの賃金闘争は極めて厳しい闘いであるが、諸要求の実現に向けて10賃金確定闘争を支部、地連の職場闘争を軸に全力で闘い抜くものである。

6月から7月にかけて僅か1ヶ月の間に足立工場、板橋工場、光が丘工場、千歳工場の4工場の排ガスから自己規制値を越える水銀が検出された。清掃事業を現場で支える労働組合として、この問題を極めて重要な問題と捉え、声明を発表するとともに、各区長に対して早期の原因究明と改めて責任ある清掃事業を確立することを申し入れた。

いまだ、原因究明はされていないが、現場で働く組合員と住民にとって安心・安全な清掃事業の確立に向けて取り組みを強化していくものである。国家的不当労働行為に対する国鉄闘争は24年を迎え大きく前進をした。政府から国鉄改革に伴うJR不採用問題について正式に解決案が示され、4者4団体は解決案を受け入れ一括和解が成立した。残された課題である雇用問題の解決に向けて、引き続き支援闘争を闘い抜くものである。

意図的な公務員攻撃や作られた現業切捨ての世論、労働組合を無きものとするような攻撃で、運動が後退することがあってはならない。労働組合としての自主性や自立性を確固たるものとし、本大会で確認された方針を基に、単一の労働組合として東京清掃労働組合は力強く運動を進め、組織を確立する。

以上、大会の名において宣言する。

2010年9月26日

東京清掃労働組合第79回定期大会

## 安心・安全な清掃事業を確立する決議

東京23区の清掃事業は、10年前の特別区移管を前後して合理化の進行が増したといえる。特別区は、清掃事業の移管以降、独自性を追求する上で予算及びコスト削減を優先し、清掃事業の公共性の部分を強化・向上させることが後回しにされている。また、退職者の補充がされず現業合理化が進む中で事業の継続・強化が行われない事態にあるといえる。

一方、「ふれあい指導」を「コア業務に」として、将来、直営業務は、「ふれあい指導」に特化していかうという考えが出されている。日々、収集・運搬作業を行いながら長年にわたり培ってきた住民との「ふれあい」による知識と経験の重要性をまったく無視した考え方である。

このような中で、可燃・不燃の車付雇上、資源・粗大の委託化が進行し、携わる非正規労働者が劣悪な労働条件で働かされている現状にある。三年前には、資源回収中の委託労働者の死亡事故も発生している。同様に、東京二十三区清掃一部事務組合においても品川清掃工場灰溶融施設にて委託労働者の死亡事故が発生している。労働者の安全に重点が置かれていない結果といえる。労働者を、人として命の尊さを無視して扱っている結果として犠牲にされたのである。

サーマルリサイクル実施においては、各区が独自性を追求するあまりに清掃事業に新たな矛盾が生じているといえる。資源ごみとして容器包装プラスチック収集が実施されている区の可燃ごみと、すべて可燃ごみとして収集している区の可燃ごみが同一の清掃工場焼却されているということが起きている。先日、発生した水銀混入ごみの不適正搬入による焼却炉の停止は、分別に対する意識の低下や分別方法の混乱が、背景にあるのではないかと。また、サーマルリサイクル実施後増加している車両火災についても、各区が、独自に対策を講じているが、収集しながら危険物を分別するという作業員に負担と危険を押し付けるものが大半であり、不十分であるといえる。

区の独自性が矛盾を膨らまし、混乱を起し、「安心・安全な清掃事業」に支障をきたすことの無いよう労働組合として点検・検証を行い、東京23区の清掃事業のあり方を追求していくことが求められている。

清掃事業に携わるすべての労働者の労働条件の向上と、住民に対する「安心・安全な」公共サービスの提供及び労働者が「安心」して働ける清掃事業を確立するため、本部、支部、地連が一丸となり、関係労働者と連帯し闘いぬくものである。

以上、決議する。

2010年9月26日  
東京清掃労働組合第79回定期大会

▼他に「2010賃金確定闘争を全組合員の総力で闘う決議」「単一労働組合としての組織を揺るぎないものとし、さらなる組織強化を目指す決議」の二本が決議されました。

### 第79回大会 来賓

○自治労東京都本部

池谷 匠 委員長

○都市清掃

今井 一広 副議長

(大阪市従環境事業支部副委員長)

蓼沼 宏幸 副議長

(横浜清掃 支部長)

○都庁職都市整備環境支部

山下 晃充 自治労現評清掃部会会長

○部落解放同盟東京都連

長谷川三郎 委員長

○国鉄共闘会議

二瓶 久勝 議長

○退職者会

鈴木 正則 副会長

戸枝 章 会計

### 第79回大会メッセージ

全日本自治団体労働組合現業局

自治労大都市共闘清掃部会

東京都労働組合連合会

特別区職員労働組合連合会

自治労東京都庁職員労働組合

都庁職現業評議会

東京都庁職員労働組合福祉健康局支部

自治労・公共サービス清掃労働組合

都市清掃労働組合協議会

全国労働組合連絡協議会

鉄建公団訴訟原告団

中央労働金庫

株式会社 印刷センター

自治労札幌市役所労働組合 清掃支部

自治労札幌市役所職員労働組合 清掃協議会

自治労旭川市職員労働組合 清掃分会

自治労帯広市役所労働組合

自治労釧路市役所現業職員労働組合

仙台市職員労働組合環境支部

金沢市従業員労働組合

千葉市職員労働組合環境支部

自治労横須賀市職員労働組合

自治労名古屋市労働組合環境支部

大阪市従業員労働組合環境事業支部

八尾市現業労働組合

神戸市従業員労働組合環境支部

自治労京都市職員労働組合清掃支部

奈良市従業員労働組合

姫路市従業員労働組合美化分会

和歌山市現業職員労働組合環境支部

岡山市現業労働組合

高知市職員労働組合清掃分会

久留米市職員労働組合現業労組

佐世保市役所職員労働組合現業評議会

自治労北九州市職員労働組合連合会

鹿児島市職員労働組合